

緑のボランティア通信

2026.10.1 No.105

令和8年度「緑の活動団体」交流会

12月5日(土) 12:00 ~ 15:00

川崎市総合自治会館 ホール

講演会

樹木医石井誠治氏

団体パネル・団体ブース

活動の様子や PR コーナー

記念品(手ぬぐい)

(無くなり次第終了)

緑のボランティア通信 MAP 号配布

団体の登録マップを掲載



入場無料・申込不要。直接会場にお越しください

緑の活動団体の方々はもちろん、これから活動を始めようと考えている方、緑に感心のある方など誰でも。



石井誠治講演会

13:00~14:00

「大きな木々はなぜ突然倒れたか」 ～ 残す樹と残る樹、私達にできる事 ～

突然の街路樹の倒木がよくニュースで聞こえてきます。それは通行人や建物への被害を引き起こす深刻な事故につながりかねません。「日本全国で倒木等による事故が増加しており、街路樹の倒木は2018～2022年に約2万6,000本発生し、人的被害は33件(重傷1件、軽傷32件)に上っています」(国土交通省調査) 倒木の原因や今後私たちに何ができるのか、樹木医の視点でお話していただきます。

先着200名 定員に達しましたらご入場をお断りする場合がありますのでご了承ください。

川崎市総合自治会館



川崎市総合自治会館

(川崎市中原区小杉 3-600 コスギ サード アヴェニュー4階)
アクセス: JR 南武線「武蔵小杉駅」西口徒歩1分

目次

令和8年度「緑の活動団体」交流会	1
協会ニュース／開催報告(6月～8月)	2
活動団体訪問・自己紹介コーナー	3
いそろう植物のヒトリゴト	4

◆寄せ植え講習会

冬の節目を彩るひと鉢 ～クリスマスからお正月を迎える和モダンの寄せ植え～

この時期ならではの特別な節目に寄り添う凛とした佇まいの和モダンな寄せ植えを作ります。冬の深まりを感じながら大切な時の彩を添える特別なひと鉢を仕立てましょう。

●日 時 11月19日(木) 午前の部：10時30分～12時30分
午後の部：14時00分～16時00分

●会 場 川崎市総合自治会館ホール（武蔵小杉駅下車 徒歩2分）

●講 師 山口 吾子 先生（ことみどり代表）

●参加費 2,000円（当日会場受付にてお支払いください）

●定 員 午前の部25名、午後の部25名（応募多数の場合は抽選）

●申込み 協会HP申し込みフォームまたは、「はがき」にて、住所、名前、電話番号、希望の部（午前 or 午後）を明記し、川崎市公園緑地協会「寄せ植え講習会」係宛に送付してください。

※10月20日(火)の消印有効

申込フォーム



◆こども黄緑クラブ

[こども編] 10時～12時

開催日	主な内容	会 場	対 象	講 師
11月15日(日)	水辺の生き物	多摩川(宿河原付近) (多摩区宿河原)	小中学生(保護者同伴) 10組20名程度	石綿 進一さん
12月12日(土)	ミニ門松づくり	生田榎戸特別緑地 (多摩区枳形)	小中学生(保護者同伴) 10組20名程度	当協会職員

開催報告（6月～8月）

里山ボランティア育成講座「かわさきの森づくり」

6月は久末特別緑地（高津区）で常緑樹の除伐、7月は王禅寺源左衛門谷特別緑地（麻生区）で除伐、8月は井田山特別緑地（中原区）で下草刈り等を行いました。



6月



7月



8月

こども黄緑クラブ

6月「生き物探検隊（対象：小中学生）」プロナチュラリスト佐々木洋先生と公園内を散策しながら自然観察会を、7月「セミのぬけがら調査＆標本づくり（対象：小中学生）」は当協会職員とセミのぬけがら収集を行い、室内で分類と標本作りをしました。8月「夜の生き物観察会（対象：小中学生）」はプロナチュラリスト佐々木洋先生と夜の緑地探索をしながら、動植物の楽しいお話をたくさんお聞きしました。



6月「生き物探検隊」



7月「セミのぬけがら調査＆標本づくり」



8月「夜の生き物観察会」

木月二丁目町会 緑の町づくり (2001年設立)

活動場所 木月二丁目町会 (中原区木月二丁目)

交通案内 東急東横線「元住吉駅」東口から徒歩3分



地域内に公園が無く住民の皆さんに少しでも花に親しんでもらいたくて、ご自宅内の玄関前に置いても良いという方にプランターの花を配置しています。今ではプランターの数が増え80個となりました。活動メンバーは、町会



役員、敬老会員、町会有志の約20名です。花の植替えは年2回、5月と11月に行っており、植替え時には、近場はリヤカー、他は軽トラックで一度にプランターを回収し

ます。回収したプランターの花は処分しますが、土は腐葉土等を混ぜて再利用しています。植替えが済んだら何回にも分けて運び配置します。この植替え作業を1日で済ませる工程が非常に大変で苦労しています。配置を終えたプランターの水やりや手入れは、置いてくれた場所でそれぞれが担当してくれています。町内の方々が進んでお花の世話をしてくれるのがとても嬉しいです。みんなのあたたかい気持ちで咲く花のおかげで町内がなんだか明るく見えます。

(中野 博)



荻宿町会 (2001年頃設立)



活動場所 荻宿町内会 (商店街・通り)、荻宿公園、新荻宿公園、若草第1公園、若草第2公園 (中原区荻宿町内)

交通案内 東急東横線「元住吉駅」・南武線「平間駅」から徒歩10分

私たちが活動している荻宿は、中原区の南部、二ヶ領用水の西側に位置しています。荻宿は昔ながらの商店が姿を消しつつある住宅街ですが、地域のシンボリックな存在として荻宿八幡大神が中心に鎮座しています。荻宿町会は、毎月第4日曜日に町内クリーンデーとして、町内商店街・通りや公園の清掃、雑草取りなど環境美化活動をしています。この活動の中でプランターや公園の花壇の手入れも行っています。メンバーは町会役員40名を中心に地域の公園近くや商店街の有志の方々、子ども会の野球部とドッジボール部の小学生も参加してくれます。主な活動範囲は、荻宿公園、新荻宿公園、若草第1・2公園の4つの公園と周辺道路で、ゴミのない綺麗



で住みやすい環境作りを目指しています。特に公園と周辺道路では、年に2回(夏の花、冬の花、約200株)花の植替えを実施しています。公園を利用する方や道路を通行する方の目を癒し、心豊かな町づくりの一翼を担っています。この花植え活動は、荻宿町会が緑化推進運動功労者として昭和59年に内閣総理大臣賞を受賞して以来、今日まで継続して取り組んでいる大切な活動であり、今後も末永く続けて参ります。

(伊部 邦雄)



いそろう植物のヒトリゴト

知らず知らずのうちに花壇に入ってくる、いそろう植物たち。
本コラムでは植物の特徴をふまえながら、彼らの「独り言」に耳を傾けていきたいと思います。

わたし いろ
私の色、
き
気まぐれじゃ
ないのよ。

29 「オシロイバナ」

(オシロイバナ科オシロイバナ属)

Mirabilis jalapa

オシロイバナは、熱帯アメリカ原産の多年草で、江戸時代にはすでに日本で栽培されていた外来植物である。地下に塊根をつくり、地上部を刈っても再び芽を出すうえ、茎は途中で折れやすく、種子も多くつく。そのため、花壇では除草しにくく、管理の手を焼かせる植物である。ところが、この身近な花は、遺伝の教科書にも登場する植物である。赤や白、黄色などさまざまな花色を見せるが、その色は気まぐれに決まるわけではない。赤い花と白い花を交配すると、中間的な色の花が現れることがある。花の色にも、親から子へ受け継がれる仕組みがあるのである。

むらさきいろ
紫色のインク、
つか
使ってみる？
でも、食べちゃ
ダメだよ。

30 「ヨウシュヤマゴボウ」

(ヤマゴボウ科ヨウシュヤマゴボウ属)

Phytolacca americana

ヨウシュヤマゴボウは、北米原産の多年草で、夏になると白い花を咲かせ、その後、ブドウのような実をつける。実は熟すと黒紫色になり、つぶすと赤紫色の汁が出る。この色は紙などを染めることができ、色水づくりや染めものなどに使われることもある。

ところが、この実には注意が必要である。ヨウシュヤマゴボウは、根や果実などに有毒な成分を含んでおり、食べると、吐き気や下痢などを起こすことがある。きれいな色には、ちょっとした注意も必要。身近な植物だからこそ、知って楽しむ。それが植物との上手な付き合い方なのかもしれない。

ペンネーム: きよすけ
(造園家・植物研究家)

植えてもいないのに生えてくる道ばたの小さな雑草たち。「雑草」とひとくくりにされてしまいますが、そんな“いそろう”たちにも一つ一つに名前と生態があります。このコーナーではそんな植物たちをご紹介します。このコーナーのご意見、ご要望をお寄せください。参考にさせていただきます。

発行・編集

(公財)川崎市公園緑地協会 緑の推進支援課

〒214-0021 川崎市多摩区宿河原 6-14-31
電話 044 (711) 6631 FAX 044 (722) 8410
<https://www.kawasaki-green.or.jp>